

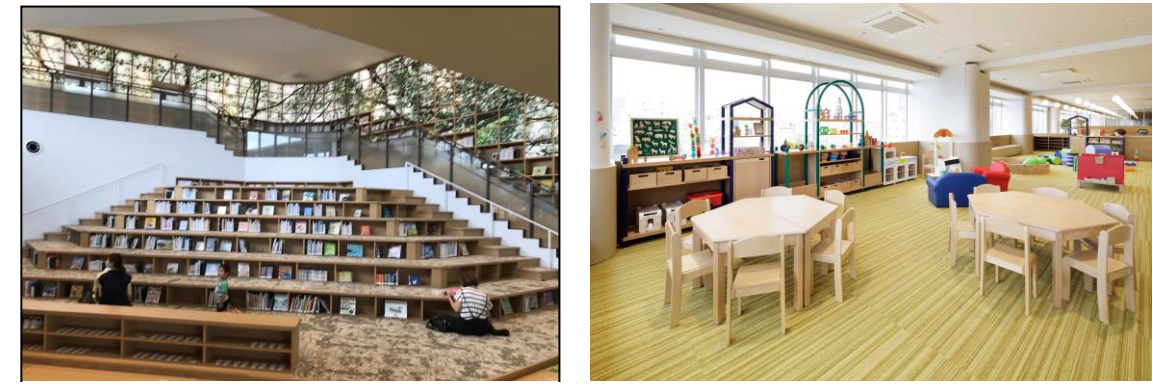
他都市図書館の事例

あかし市民図書館（兵庫県明石市）



開館年月	平成 29 年 1 月
立地	JR 明石駅前（駅から徒歩約 2 分） ※図書館までの通路に屋根あり
設置方法	駅前複合ビル 4 階への移転
延床面積	4,105 m ²
蔵書数	約 45 万冊
来館者数	約 91 万人（令和元年度） ※旧図書館の来館者数の約 2.8 倍
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 児童書エリアと一般書エリアの間に交流エリアを設けることで、子どもの声が一般書エリアまで届きにくいよう工夫 同ビル内の他施設との連携（こども健康センター） など
移転による効果	<ul style="list-style-type: none"> 駅前にあることで、本のまちとしての発信効果が高く、これまで図書館を利用したことがない人の読書推進につながっている。 駅周辺の回遊性を高めるための「にぎわいづくり」の施設となっている。

和歌山市民図書館（和歌山県和歌山市）



開館年月	令和元年 12 月（一部開館）、令和 2 年 6 月（全部開館）
立地	南海和歌山市駅隣接（駅から徒歩約 1 分）
設置方法	駅前へ新築移転（隣接する商業ビルと 2 階通路で直結）
延床面積	7,597 m ²
蔵書数	約 48 万冊
来館者数	約 67 万人（令和 2 年度） ※旧図書館の来館者数の約 3.9 倍
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 芝生広場や、プレイスペース、もぐもぐスペースなど、親子で楽しめる工夫 郷土作家、移民資料室など郷土に根差した展示 カフェ、物産販売、観光案内 など
移転による効果	<ul style="list-style-type: none"> 高校生、大学生など電車通学する学生の利用が増加している。 滞在型の図書館として利用されている。 駅前周辺市街地の賑わいが創出されている。

土浦市立図書館（茨城県土浦市）



開館年月	平成 29 年 11 月
立地	J R 土浦駅東口前（駅から徒歩約 1 分） ※屋根付きペDESTリアンデッキあり
設置方法	駅前複合ビル 2~4 階への移転
延床面積	5,118 m ²
蔵書数	約 45 万冊
来館者数	約 57 万人（平成 30 年度） ※旧図書館の来館者数の約 2.8 倍
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 飲食可能なスペースやデザイン等を工夫したキッズコーナー 自動化書庫、自動仕分け返却機、自習室の予約システム等の IT 化 など
移転による効果	<ul style="list-style-type: none"> 高校生の自習・学習での利用が増加し（移転前に比べ、高校生の貸出冊数が 6 倍）、また、駅前の通行者数も増加（平日 1.1 倍、休日 1.5 倍）している。

三原市立中央図書館（広島県三原市）



開館年月	令和 2 年 7 月
立地	JR 三原駅前（駅から徒歩約 3 分）
設置方法	駅前に単館新築（同一区画内に商業施設、ホテル、広場等有）
延床面積	3,170 m ²
蔵書数	約 25 万冊
来館者数	令和 2 年度（R2.7.23~）約 24 万人、令和 3 年度（~R3.9.30）約 11 万人 ※旧図書館約 7 万人（平成 31 年度、別カウント方法）
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 様々なテーブルとイスを配置し、くつろぎながら読書を楽しめる工夫 緑色のカーペットが広場の芝生を連想させるおなはしのへや など
移転による効果	<ul style="list-style-type: none"> アクセスの良い駅前に立地するため、旧図書館を利用していなかった市民等も利用し、利用者数が大きく増加している。 図書館単独でのイベント開催とともに、広場や民間施設、周辺商店街など連携したイベント開催などにより、中心市街地のにぎわい創出に効果がある。